

まるりん通信

世界自然遺産登録
SINCE 1993

屋久島

第171号 平成26年9月発行

公益財団法人 屋久島環境文化財団 Tel42-2911 Fax49-1018



参加者募集中

屋久島感動めぐり～悠久の自然・歴史・文化にふれるセミナー～

心に撮す秋の屋久島

プロのカメラマンによるカメラレクチャーを通して、屋久島の豊かな自然の風景、笑顔撮影します。屋久島ですてきな秋を体験しませんか。

屋久島までの往復旅費
は含みません

参加費：25,000円(3泊8食、保険料込)

期日：10月31日(金)～11月3日(月) 3泊4日

対象：一般(高校生以上)

定員：20名(先着順)

申込締切：10月17日(金)



(お申込みされた方で10月29日16時以降にキャンセルする場合は、保険料等のキャンセル料が発生します)

★詳しくは研修センターまで Tel46-2900

随時募集中

地元語り部とめぐる「里めぐり」

地元語り部の案内による2～3時間の集落散策(まちあるき)です。

内容：史跡巡り、地場産業見学など ★現地集合、現地解散となります。

実施集落：吉田、宮之浦、春牧、平内、中間

参加費：1,500円(集落により申込み期限、最小催行人数が異なります)

詳しくは、ホームページをご覧ください。お電話でお問い合わせください。

お申込先：屋久島里めぐり推進協議会(研修センター内)

電話 0997-46-2900 <http://www.yakushima.jp/>



研修センターふるさとセミナー

秋の星空観測会

プロジェクターを使って秋の星空のレクチャーを行います。宇宙、星空に関するクイズ大会(景品付き)もあります。

開催日：9月26日(金)

会場：小瀬田小学校 体育館

屋上または旧小瀬田中校庭

時間：7:00開場 7:30スタート

見所：アンドロメダ銀河、夏の大三角など

料金：無料

★お問合せ先 研修センター Tel46-2900



交流ホール展示

南西諸島の鳥200展

南西諸島(種子島・屋久島からトカラ、奄美、沖縄、先島)に生息する野鳥の写真約200枚(四切)を展示します。

期間：10月15日(水)～11月3日(月)

主催：NPO法人群島鳥類研究会

会場：村センター 交流ホール(宮之浦)

入場：無料



★★★ 村センターは、9月、10月は無休で開館します。★★★
☆☆☆ 研修センター休館日 9/8(月)、10/20(月)、27(月) ☆☆☆



～インストラクター便り～

『動物の名前が付いた植物』

インストラクター 山口 翔太

暑い夏が終わりようやく秋が訪れようとしています。屋久島ではまだまだ海水浴を楽しむことができます。海に行くと砂浜にざらざらとした手触りの葉っぱを持ち、2cmほどの黄色い花を咲かせた植物が生えています。この植物、名前を「ネコノシタ」と言います。ざらざらとした手触りが猫の舌を連想させるからです。

このように動物の名前が付いた植物は非常に数多く存在します。今回はその一部を紹介します。

- ・イヌ～:「いらぬ」がなまったもの。有用な植物に対し、似ているが役に立たないもの。
→イヌザンショウ、イヌガシ、イヌビワ、イヌガヤ、イヌマキ…
- ・スズメ～:小さいことで使われることが多い。 →スズメノエンドウ、スズメノヤリ、スズメノテッポウ…
- ・カラス～:大きいことで使われることが多い。 →カラスザンショウ、カラスノエンドウ…
- ・ウシ～:牛のように大きいという意味から。 →ウシハコベ、ウシクグ、ウシノシッペイ…
- ・ノミ～:ノミのように小さいことから。 →ノミノツヅリ、ノミノフスマ…
- ・マイヅルソウ:葉を二枚広げた姿をツルに見立てた。
- ・ミズバイ:枝につく実をミズが這っている様子に見立てた。
- ・アリオシ:アリを刺し通せるほどの鋭いトゲを持つ。
- ・オオカメノキ:丸く大きい葉をカメの甲羅に見立てた。

このほかにも動物の名前がついた植物はたくさんあります。

植物を見つけたときはその由来について考えてみると面白いかも知れません。



ネコノシタ

参考文献：深津正（1989）植物和名の語源。八坂書房

◇◇◇ 財団の活動報告 ◇◇◇

子どもエコ隊

8/3 第2回目子どもエコ隊を実施しました。今回は台風接近のため、遺産センター見学など室内で屋久島の学習を行いました。



異文化交流セミナー・留学生ホームステイ

8/26から鹿児島大学異文化交流セミナーが実施され留学生30名が屋久島のボランティアとの交流を行いました。また、20名が28日から屋久島家庭でホームステイを行い、屋久島の生活を体験しました。



屋久島を想う 93

事業課長 寺田 太久己

1993年世界自然遺産に登録されてから、世界各地からたくさんの人が訪れている。屋久島の魅力って一体なんだろう？って考えてみる。

自分の子どもの頃は、自然がすべての遊び場であり、学習し、体験するところだった。野山を駆け回り、蝶の採集に明け暮れた毎日。川に入りウナギを捕ったり、エビを捕まえて天ぷらにしたり、自然と共に生活し育まれてきた。釣りがしたいなと思って地先の釣り場に行くのに5分。海水浴がしたければ学校が終わってから川や海にすぐ行ける環境。夜になれば満天の星空観察もできる。そんな屋久島に生きてきた私にとってそれは普通であり、自然の営みであり、なんら不思議でもない。しかし都会の人にとってそんな自然を体験させてくれるフィールドが身近にない。だからそのオアシスを求めて屋久島にやってくるのだろうか？

そんな屋久島の大自然。次の世代にバトンタッチするまで私たちが守り続けなければならないと今ひしひしと感じる。

